



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2025～2026年度 RI会長 フランチェスコ・アレツツォ
RIテーマ UNITE FOR GOOD

クラブテーマ「”笑顔”のために手を取りあおう」

会長 服部光弥 幹事 小島 真

第1622回 例会
2025.11. 28(金)晴

司会: 杉山寿美子君

ロータリーソング「それでこそロータリー」 指揮:高橋大輔君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

「地域卓話」

本日は大変お忙しい中、三嶋大社宮司 矢田部盛男さま、せせらぎ三島ロータリークラブ例会にお越しいただき、会員を代表し大変感謝申し上げます。ありがとうございます。

前回の例会後から本日までの間に、私の自治会となる若松町でおたまちゃん食堂

が主催する「駄菓子屋カー」の実施開催、そしてDテーブル・Fテーブルのテーブルミーティングが開催されました。この2つのテーブルミーティングでの内容等々につきましてはこの後の幹事報告にて報告があると思いますので私からのコメントは控えさせていただきます。本年度は例会数がグッと少なくなったことで、会員間のコミュニケーションをおこなううえでもテーブルミーティングに重きをおいています。新会員や先輩会員、パスト会長の皆様からクラブへの忌憚のない意見や思いを皆さんと沢山談話したいと思います。またこのことは会長としてはうれしい限りです。是非ぜひ皆様「テーブルミーティング」をお楽しみに、またテーブルマスターそして世話人の方には大変お世話になります。どうぞ今後もよろしく願います。

さて、本日の「地域卓話例会」ですが、私が知るところでは初の「地域卓話」となります。例年は卓話のスピーカーとなった会員が知り合い等々の人脈をお願いし「ゲストスピーカー」を招聘することはありましたが、今回は初めて「地域卓話」と銘打っての例会です。この「地域卓話」は「地域をもっと寄りよくなる為に、もっと地域を知り、理解して今後の奉仕に役立てよう」という目的で開催をさせていただきました。その初回に今回は三嶋大社矢田部宮司にお越しいただきました。11月25日の静岡新聞には「三嶋大社社殿改修へ90年ぶりの遷座祭！「カケコー」闇夜に響く・・・と題して掲載されていました。「遷座祭」？「カケコー」？「90年ぶり」？えっ何々・・・？ですよ。『三嶋大社のご祭神は？』『矢田部宮司は何をしているひとなの？』『矢田部家って普通の家とは違うの？』等々・・・今日はそのあたりの話も聞けることかと楽しみにしています。

本日の例会終了後には、貴重な話が聴けた・・・三嶋大社のことが少しでも理解できた・・・矢田部宮司のお人柄に惚れた・・・

会長 服部光弥君



笑顔溢れ、この後の直会にも多くの仲間と・・・そしてできる事なら少しの時間でも矢田部宮司を取り囲んでの時間が実現することを祈念して、矢田部宮司への感謝の言葉にかえさせていただきます。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

三嶋大社宮司 矢田部盛男様
菅野裕紀さん(三輪君・土屋君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	マークアップ	修正出席率
前々回	33/41	80.48%	36/41	87.80%
今回	32/41	78.05%	会員総数	42名

欠席者 あなたが見えなくて残念でした。

遠藤君、大村君、佐野君、仲原君、藤川君、矢岸君、吉村君、渡邊君 (*出席免除会員の欠席者 片野君)

おめでとう

会員誕生日 11月10日 岡良森君



地域卓話

三嶋大社 宮司 矢田部盛男様



三嶋大社の概要から、日本の古代史、特に縄文時代から平安時代にかけての社会変革と信仰の発展について深く掘り下げ、稲作の導入がもたらした社会構造の変化、神社の起源、そして伊豆半島と富士山の火山活動が三嶋大神の信仰形成に与えた影響を解説。日本の神様に対する古代からの観念(神観念)を理解することが、源頼朝をはじめとする武家政権による信仰の継承、ひいては三嶋大社や三島市の歴史の重要性を理解する鍵である。

1. 三嶋大社の概要と特徴

•神社の配置と南面思想: ご祭神にゆかりの深い伊豆諸島を望む形で南向きに建てられている。全国の神社の多くは、南面思想に基づき南向き、あるいは東向きに建てられることが多い。

•境内の構造: 旧東海道から鳥居をくぐると神池があり、総門、神門、舞殿を経て御本殿に至る。参拝者は舞殿を回り込むようにして参拝する。

•摂社と末社: 境内には若宮神社や見目神社などがあり、ご祭神にゆかりの深い「摂社」と、ご縁があって祀られる「末社」に分けられる。これらも大事な神様として年に一度例祭が執り行われる。

•境内の変遷: 現在の境内は街中にあり長方形だが、もともとは北側へずっと伸び、社家の家があったと推測される。順天堂大学キャンパス東側の稲荷神社は、かつての社家の鬼門の神様であったとされ、当時の境内の広さを示唆している。

•社格と規模: 戦前までの社格は「官幣大社」で、国からお供えが上がる神社の中でも特に霊験あらたかな神様を祀る格。静岡県内では三嶋大社と富士山本宮浅間大社の二社のみ。境内の広さは約1万5千坪で、山を境内地とすることが多い官幣大社の中では非常に狭い部類に入る。

2. 古代日本の社会と信仰の変遷

•縄文時代: 一族一党で暮らし、狩猟採集や漁労で生活。富士山の方角を向いた祭壇などから、アニミズムのような自然信仰が存在したと推測される。

•弥生時代と稲作のインパクト: 稲作技術の伝来は日本の歴史上最も大きな変革であり、共同体(村)の形成、防衛意識と「政治」の芽生え、祖先や神々の物語(ストーリー)の創出につながった。

•稲作がもたらした文化

○備蓄文化: 米の長期保存が可能になり、将来を見越す「経年度予算」的な考え方が生まれた。

○二大祈願: 「豊作」と「子孫繁栄」が日本人の最も大事な祈りとして確立され、現代の神社の祝詞にも必ず含まれる。

•神社の成立

○仏教伝来と神道の自覚: 仏教建築の伝来に対抗する形で日本の神社の形式が形成され、外来信仰を前に「自分たちの信仰とは何か」という自覚から『古事記』『日本書紀』が編纂された。

○常設神社の発生: 天武天皇の御代、諸国に神の宮を建立・修理するよう詔が発せられた。それまでは祭りの度に神を招く形式だったが、これにより神に常駐していただく常設の神社が全国に発生した。

3. 三嶋大神の信仰の成立と発展

•日本の神観念の基本:

○日本の神様の最大の特徴は「目に見えない存在」であること。古代日本人はこれを認知し、共に生活してきた。

○目に見えない存在を「神(かみ)」「命(みこと)」「玉(たま)」「火(ひ)」「地(ち)」といった言葉で表現した。

○玉(たま): 魂の語源。火(ひ): 物事を生成する働き。この「火」が宿る容器が「人(ひと)」。地(ち): 体内を素早く動く血。

○これらの言葉から、自然を動かす大きな力を「神」と呼ぶ、古代日本人の謙虚な世界観が見える。

•信仰を生んだ地質学的背景:

○伊豆半島はフィリピン海プレートの北上に伴い本州に衝突して形成された「トラブルの交差点」であり、活発な地殻活動が続いている。

○『日本書紀』には大島の噴火が神の仕業のように記述されており、これが三嶋大神の息吹を感じさせる最初の記録である。

•朝廷による認識と信仰の拡大:

○8世紀: 伊豆国の三島の神は10戸以上の氏子を持つ有力な神社で、大きな経済基盤があった。

○9世紀: 三宅島や神津島の噴火を鎮めるため、三島の神とその后神に「明神」の位が与えられた。これにより、伊豆諸島の神々が三嶋大神の家族として擬人化され、一体の世界観が形成された。

•富士山噴火と信仰圏の拡大:

○9世紀の富士山大爆発を受け、朝廷の視野は伊豆から富士山まで広がり、「富士火山帯一帯」が信仰地域として捉えられた。

○富士山の湧水が流れる三島の地が、この広大な信仰圏の中心として神を祀る場所選ばれた。

•武家政権による信仰の継承:

○平安時代中期、律令国家の衰退で困窮した神社を、源頼朝が篤く崇敬し支援した。頼朝は流鏝馬を奉納し、鎌倉幕府開設後も信仰を寄せた。

○頼朝の妻・北条政子も崇敬が厚く、境内の巖島神社は政子が勧請したと伝えられる。

このようにして、三嶋大神への信仰は武家政権に引き継がれ、現在まで続いている。



スマイルボックス

服部光弥君: 三嶋大社宮司(ぐうじ) 矢田部盛男さま、本日は大変お忙しい中、せせらぎ三島RCの例会にお越しいただきありがとうございます。会を代表して御礼申し上げます。短い時間ですが、実りある貴重な時間を共有でき、とても光栄です。よろしくお願ひします。

中村徹君: 三嶋大社矢田部宮司さんには当クラブ例会に御出席いただき、ありがとうございます。私が2000年~2001年、第12代会長だった時、三嶋大社から密なる案内状をいただき、出席させていただいたことを懐かしく思い出しました。今日をきっかけに当クラブも三嶋大社との更なる交流を復活していただく様、よろしくお願ひ致します。

野村諒子君: 新三島市庁舎の場所が決まりました。これからは庁舎の跡地を含めて三島のまちをどうするかが課題です。皆さんのアイデア、ご意見をお願ひします。提案していきます。

仲原実圭君: 本日私用でお休みいたします。よろしくお願ひいたします。